

「 震災から学んだこと 」

鹿児島県 霧島市立国分南中学校 1年 池田 征吾

最近、ニュースやSNSで地震や土砂災害など、様々な震災の話題が取り上げられています。でも僕は、そんなことを耳にしても自分の周りでは震災は起きていないから大丈夫と深く受け止めていませんでした。

しかし、7月30日の朝、「ピロピロリン、ピロピロリン」と、僕の携帯から災害時の警報音が大きく鳴り響きました。僕は何かと思い、携帯を見ました。携帯には、津波注意報が出ていました。すぐにテレビの電源を入れて見てみると、そこには、カムチャツカ半島付近で発生した地震により、日本の沿岸に津波警報、津波注意報が発表されていました。

北海道では、津波の映像が流れており、テレビの右上画面には、「逃げて!」と、大きな赤文字で書かれていました。

僕は、あの映像を見てから被害にあっている人や亡くなった人はいないかどうか、心配になりました。その日の夜、今日の出来事を家族で話をしていると母が、8・6水害について教えてくれました。母は当時小学校6年生だったそうです。家の近くの山が崩れて大きな岩が住宅付近まで流れ落ちてきたことや、祖母の実家が8・6水害にあい、家が丸ごと土砂崩れに巻き込まれて跡形もなく流されたことを教えてくれました。僕は、その話を聞いてもっと聞きたくなり、祖母に会いに行きました。祖母は、8・6水害のことについて詳しく話してくれました。

「おばあちゃんの実家は、吉田町というところで、その日は、おばあちゃんの兄妹家族が帰っていたの。おばあちゃんの実家は、もう誰も住んでいなくてお盆の時期ということもあって、お墓参りや家の掃除など、必ずおばあちゃん達の兄妹でしていたんだよ。そして、その日は、泊まろうという話になっていたんだけど、夜ご飯の材料がなくて、結局泊まることはしないで帰るという話になって帰ったんだよ。その帰った30分後に、おばあちゃんの家は山の土砂に飲み込まれてしまったの。」と、話してくれました。僕は、その話を聞いた瞬間、思わず、「えっ」と、声が出てしまいました。

もし、夜ご飯の材料があつたら、土砂に巻き込まれて、おばあちゃんの兄妹家族の人達は死んでいたかもしれない……。そう考えると、ゾッとしました。まさか、僕の身近なところで大きな災害が起きていたなんて。助かったことが奇跡だと思いました。

僕は、8・6水害が実際にどんなものだったか気になり、ネットで調べてみました。すると、祖母、母の実家周辺の土砂災害、川の氾濫、冠水の写真や様々な地域の災害やニュース、映像が出てきました。もう僕は言葉が出てきませんでした。自然の怖さを感じました。そして、自然に勝つことは絶対にできないということも痛感しました。

しかし、「自分の命を自分で守る」ことはできます。土砂崩れや津波、地震といった災害が起きた場合には、避難場所がどこにあるのかを把握しておくことで、慌てずに安全な場所へ避難できます。

僕は、母とどこへ行けば安全な場所があるのか、実際に探してみたり、調べたりしてみました。学校や公民館があるのはわかっていたましたが、土砂崩れや津波が来た時にこの高さでは大丈夫なのか・・・など、普段全く考えないことを真剣に考える自分がいました。

避難場所を把握、確保しているだけでも自分の命を守ることはできます。いつ、どこで、何が起こるかわからないから、安易に「大丈夫でしょ」と思うことはしません。

現在、ネットやニュース、たくさんの情報があります。いざ起こった際は内容を把握して、できるだけ慌てずに避難ができるよう、日頃から身につけることが大事だと、今回の震災を通して改めて思いました。